

サービスプラットフォームとしてのREALITY2.0を支える技術

- 科学技術による社会変革のインパクトを最大化するためのシステム統合の共通基盤技術の強化
- 社会の機能をエコシステムとしてサービスプラットフォームに実装する



- ソフトウェア基盤技術
 - ソフトウェアによるビジネスプロセスの定義技術
 - 仮想化、コンポーネント化技術、物理世界の機能仕様記述言語
 - ワークフロープロセス定義、実行管理技術、仕様検証、性能保証技術
 - Software Defined Societyの研究
- 大規模分散協調コンピューティング技術、インフラ
 - 認証、課金、価値の再配分技術
 - セキュリティー、プライバシー、レジリエンシー
 - リアルタイム情報処理技術
 - 共有研究基盤構築(計算インフラ、データ、機能分化)
 - データプラットフォーム、メタデータ、LOD
 - スマート社会インフラ、アーキテクチャー(スマートコモンズ)
 - フェデレーティッドコンピューティング、森羅万象コンピューティング

- サービスプラットフォーム、サービスサイエンス
 - サービス発見、検索、合成、管理技術
 - 社会コストの見える化と最適化
 - 社会・経済インパクト経済モデルの研究
- 新しいサービス
 - 賢い判断と選択のできる社会のための助言サービスの実現
 - 機械と人間の新しい関係の創出する科学と産業
 - 集団認知、行動科学、集団行動特性把握技術
 - 知的サービスプラットフォーム、社会助言サービスシステム
 - 機能の科学

- 上記を支える基盤技術
 - 次世代人工知能、IoT、ビッグデータ、ヒューマンインタラクション、極低消費電力コンポーネント、インプラントブルデバイス、知のコンピューティング

REALITY2.0におけるシステム連携の例 「災害対応サービスの動的生成」

- 介護・ヘルスケアサービスや、人流・物流サービスなど平時に役立つサービスを運用
- 災害が発生した場合には、必要な機能を既存のサービスから切り出し、必要な地域に複合サービスとして提供
- 複合サービスはソフトウェアによって定義されるため、迅速かつ柔軟に提供可能
- そのためには、セキュリティーやプライバシー保護、課金などの運用ルールを変更できることが必須

